

最後に脊中から糸をつけて細竹につるします。
これで燕は出来上りました。具合よく出来ます

三月と兒童

と善い音がしてよくまはつて大變おもしろうござ
います。

村尾節三述

三月と兒童と云はゞ先づ雛遊に指を屈すべけれ
ど雛遊に就ては書冊にも由来を記し好事家の研究
もあれば暫らく此には略し唯二三特殊なる行事を
述ぶべし。

因州鳥取市にては雛荒しと稱し舊曆の三月三日
に雛を飾りたる家に「雛さん見せてつかい、つい
でにおいりをつかい」と連呼して數名の男兒組を
なして座敷に入りて座す家人は方言にておいりと
云ふ豆炒に似たるものを紙に包みて與ふ若し與へ
ざれば歸らざるの風あり。

阿波の徳島にては節供の日辨當を携へて古來の
名將の名を記したる細長き旗を作りうなぎ幟と稱

して押立て「よいサアエ、よい〜、馬が物いふて、
よい〜」と極めて緩に謠ひて大瀧山に登り辨當
を開きて食ひ打興じつゝ遊べり又筑前國の一地方
にては節供の翌日に「だんごろごろ」と云ひて子供
は團子及辨當を作りて春の野邊に行き一日の行樂
を恣にして過すとあり又會津耶麻郡の山都地方ヤマツ
にては此月十五日に花祭と稱し子供に親或は兄弟等
辨當を作りて與ふ子供等は互に友達を誘ひて郊外
に赴き蓮華草さく畑に入り辨當を開き終日歡を盡
して歸り櫻花の盛りにも花見をすることなし。

伊豆の新島にては初め舊曆二月十五日に流鏑馬
式を行ひしが現今にては三月十五日に行ふことに

改めたり此式には兩親ある十三四歳以下の子供を
 潔齋の爲め十四日の夜より社務所に宿泊せしめ其
 日には麻上下を著け大小を佩かしめ恵方に向つて
 を弓引き各一人にて矢を六十六本宛を射り終つて
 其矢を一本宛を持ちて家に歸り屋根裏に挿すの風
 あり。

以上述べたる所にて雑荒しの惡慣習は他所にも
 類似の事あり宜しく制止すべき事なれども郊外に
 赴き山に登る等は都會はさならぬ地方にても行ひ
 て普及したき行事ならずや

○大正幼年唱歌集の完成

葛原函氏作歌の大正幼年唱歌集は今度いよゝ
 第十二集が発兌されて、同唱歌集は完成の運びに
 至りました。葛原氏の同唱歌集に對してのお骨折
 は我が國の保育界に尠からぬ便益を與へて居りま
 す。記者は同唱歌集の完成を喜ぶと共に、この際
 全集の目次を次ぎに掲げて置きたく思ひます。

第一集		
一 幼稚園	二 さくら	三 飛行機
四 蝶と春風	五 私の先生	六 ビアノ
七 お庭の草花	八 お人形	九 お馬
一〇 かくれんぼ		
第二集		
一 噴水	二 ほたる	三 藤の花
四 汽車	五 シヤボン玉	六 かへる
七 小さな鯉	八 ブランコ	九 お船
一〇 せみ		
第三集		
一 お月様	二 蟲のこえ	三 飛行船
四 天長節	五 蓄音機	六 林檎
七 運動會の朝	八 腰掛	九 落葉
一〇 木舟泥舟		
第四集		
一 一月一日	二 雙六遊び	三 梅に鶯
四 雪	五 紀元節	六 ストオヴ
七 鸚鵡	八 活動寫眞	九 積木
一〇 犬と猫		
第五集		
一 ごもん	二 野遊び	三 葎たんぼぼ
四 お山	五 おべんたう	六 雛子
七 かたつむり	八 燕	九 お玉じゃくし